

ニューズレター Vol .9

Multiloop Edgewise Arch-Wire Technic and Research Foundation

マサチューセッツ州ウェストン

2002年11月

前回のニューズレター以降の出来事

ドイツ矯正歯科学会の年次大会が 300 人以上の出席を得て 4 月 13~14 日にベルリンで行われました。

Dr. Kim は ‘Treatment of Class III malocclusions without surgery’ というテーマで MEAW の治療概念について紹介しました。出席者の多くは、III 級の不正咬合は外科を用いずには治療不可能と思っていたようです。しかし MEAW の治療概念に多くの人が興味を

今年は中国の仲間が北京で MEAW 研究会をスタートさせた年でした。Fu Minkui 教授のリーダーシップのもと、第 1 回北京国際 MEAW 研究会が 600 人余りの参加者を集めて 6 月 7 日と 8 日、北京で開催されました。コロンビア、ヨーロッパ、日本、韓国、フィリピン、台湾、タイ、及び米国などからもたくさんの参加者がありました。大会は多くの政府高官らが出席するパーティなどもあり素晴らしいものでした。大会における発表はパワーポイントを用いた素晴らしいクオリティのものでした。

この大会に先立ち Dr. Kim による 2 日間のプレ・カンファレンスコースが行われ、475 名の出席を得て、ホールは満席となりました。中国の人口は 13 億といわれています。今回の出席者の 600 名とか 475 名とかいうのは、それに比べれば微々たるものです。3 日目にはワイヤーベンディングセッションが行われました。どういうわけか、彼らはすでに MEAW の曲げ方をよく知っているように思われました。現在、北京医科大学の矯正科には約 6,000 名の患者がいるといわれており、MEAW による治療はそれらのケースのほとんどにおいてなされているということです。Fu 教授によると中国では約 20,000 名の患者の口の中に MEAW が set されているだろうということです。これは驚くべきことです。

この第 1 回北京国際 MEAW 研究会大会にあわせて、北京医科大学矯正科の associate professor であり co-chairperson である Dr. Ding Zhang による、セファロの鑑別診断と MEAW の治療概念についての非常に有益な本が発行されました。この本は 225 ページからなる診断のためのイラストレーションと、28 例の素晴らしく治療された困難な症例からなっています。こ

の本の発行のために MEAW Foundation より、\$ 10,000 のグラントが与えられました。大会後の北京におけるツアーは素晴らしいものでしたが、西安における 7,000 体の戦士の像と、桂林におけるアイスクリームのコーンを逆さまにしたような幾多の岩山の景色は最も美しい白然の景観で、誰もが楽しめるものです。もし見たことがなければ、ぜひご覧になってください。その美しさを決して忘れることはないでしょう。

8 月 23 日と 24 日には、Dr. Kim は 33 名の参加者を対象に、MEAW を用いた困難な不正咬合の治療というテーマで 2 年目となる 2 日間のコースを行いました。これはジョージア州アトランタにある Gnathos, Inc. の主催により行われました。Gnathos, Inc. は Dr. Gerald Samson が指導する矯正学の continuing education の group です。現在、ここの多くのメンバーは MEAW による治療を The Quality Control Lab に bending を委託して行っています。メンバーの何人かはこの治療法による素晴らしい成功例を報告し、非常に喜んでいますが、もし Q.C. Lab にワイヤーを曲げてもらうことに興味をお持ちの方がおられましたら、Jeff Paul 氏 (1-800-537-1018) までご連絡ください。

9 月 25 日に Dr. Kim は日本の長野県にある松本歯科大学を訪れ、graduate students のために講義とセミナーを行いました。この学校は、まるで樹木園の中のようなところにあり、設備は豪華で広々としています。ここで勉強する学生達はなんと恵まれていることでしょうか。

9 月 26 日と 27 日に日本の長野で Dr. Kim と Dr. Sato によるセファロメトリックの鑑別診断法と MEAW による治療法というテーマで 2 日間のプレ・カンファレンスコースが行われました。いつものように、なかには 8 回も 9 回も受けたという参加者がいました。これらの参加者は受けるたびに新しいことを学ぶことができると言っていました。日本 MEAW 研究会は、12 回目の大会を日本の長野で 9 月 28 日と 29 日に 70 名の参加者を得て開催いたしました。この大会のゲストスピーカーで東京医科歯科大学名誉教授の黒田敬之先生には「外科的矯正法の鑑別診断におけるポイント」というテーマで非常に有益な講演をしていただきました。もう一つの特別講演は新潟大学教授の河野正司先生による「咬合治療の新しい概念」という講演でした。そのほか会員による講演も多く、示唆に富み、有益なものでした。それらのいくつかのケースは信じられないほど、よく治療されたものでした。このような難しい不正咬合を他の普通の矯正的手法によって治療することはおそらく不可能でしょう。第 13 回の年次人会は福岡において 2003 年 10 月 23 日から 26 日に行われる予定です。

第6回の2年毎の Korea MEAW Foundation の大会が11月23日に200名余りの参加者を得て韓国のソウルで行われました。この大会は韓国の Foundation の創立10周年を記念するものでした。スピーカーは日本から Dr. Sato, Kurihara, Ikegami の各先生、中国から Dr. Jia and Zou の各先生、米国から Dr. Kim、そして韓国から Dr. T. W. Kim の各先生でした。この記念大会のために日本から10名以上の参加者がありました。いつものように講演はいずれも示唆に富み、有益なものでした。このような講演を聴くと我々はしばしば、「他の矯正医はどうやってこのような難しいケースを治療しているのだろう」と思わざるを得ません。韓国 MEAW Foundation の10周年をお祝いして、外国からの招待客と韓国 MEAW 研究会の各理事達は、おいしい韓国料理と韓国に古くから伝わる音楽を楽しみました。

2年間の advanced orthodontic continuing education course の韓国における8期生のクラスが通常の40人の卒業生を送り出すことで終了しました。期が進むごとに、よりよい治療結果を示してくれているようです。第9期は来年の3月より2年間のコースをスタートする予定です。

今年の Kim Fund scholarship の受賞者は日本の横須賀にある神奈川歯科大学で学んでいる中国人の Dr. Ding Bai に決まりました。彼の研究テーマは「夜間 bruxism を有する患者における咬合の安定性について」というものです。この奨学金の受賞者は日本円で¥400,000、米ドルで約\$3,300の奨学金を受け取ることができます。研究に興味を持っているメンバーがおられましたら、Dr. Young H. Kim <youngkimdm@earthlink.net> もしくは日本 MEAW 研究会会長 Dr. Tomio Ikegami <dds@ga2.so-net.ne.jp> までご連絡ください。

多くのリクエストにより、2年おきに行われる第6回 MEAW Foundation の国際ミーティングが来年4月28日から30日までの間、1999年と同じハワイのホノルルにあるシェラトンワイキキリゾートホテルにおいて行われます。このミーティングの後、AAOの大会がホノルルにおいて5月2日から7日まで行われます。この大会で講演を希望する方がおられましたら、Dr. Ikegami までご連絡ください (E-mail は前出)。

現在の各国における会員の数は下記の通りです。

The MEAW Foundation(USA) 132
The Japan MEAW Kenkyukai 534
The Korea MEAW Foundation 435
The China MEAW Study Group 400
The Greece MEAW Study Group 12

The Philippines MEAW Study Group10

The Colombia MEAW Study Group5

国際 MEAW 研究会雑誌の第 8 号は現在印刷中で、近々各会員に送付される予定です。

写真の説明（掲載順）

1. ベルリンに於ける学会で講演する Dr. Kim
2. 北京大会に於ける来賓者
3. 北京大会で講演する Dr. 佐藤
4. wire-bending session の参加者
5. 桂林の素晴らしい景観
6. 松本歯科大学矯正学主任教授の栗原三郎先生と教室員及び卒後研修生

（訳責 池上 富稚）